

なぐら・はやと◎兵庫県姫路市出身。1988年に関西外国語大学を卒業後、メガネのバリミキ入社。東京の新宿や渋谷の店舗で眼鏡の販売や加工、視力検査、補聴器販売などに携わり、眼鏡に必要な知識、技術を幅広く習得。94年、ハワイに出向し、ホノルルの3店舗でGMとして2002年まで勤務。その後、バリミキのロサンゼルス出店を機に同地に移住し、立ち上げから店の運営まで携わる。06年同社を退社後、07年に自身の眼鏡店「Eye Walk Optician」をロミータで開業し、現在に至る。好きな食べ物はパン。趣味はテニス、バイク、写真撮影。 <https://www.eyewalk.net/>



―学生時代について教えてください。
小学校までは野球少年でしたが、中学で軟式テニスに転向し、大学卒業まで続けました。高校卒業後は関西外国語大学で英語に加え、さまざまな国の文化を学びました。周りに多くの外国人や留学する友人がいたことで、自然と「将来は海外で働いてみたい」と考えるようになりました。

―卒業後、メガネのバリミキに就職をされた理由は？
アパレル系の仕事に興味があり、さらにその中でも海外赴任の可能性がある会社の採用試験をいくつか受け、バリミキを選びました。とはいえ、今でこそファッションアイテムとして広く愛されている眼鏡ですが、1988年当時は視力矯正器具でしかなく、フレームの形も限られていましたし、おしゃれで眼鏡をかける人もあまりいませんでした。

―就職後は慣れ親しんだ関西ではなく、東京で勤務されていますね。
はい。一番忙しい店舗で経験を積みたたくて、東京勤務を希望しました。中でも特にお客さまの多かった新宿や渋谷、日暮里の店舗に勤務し、毎日忙しく働きながら、眼鏡やコンタクトレンズの販売、フレームやレンズの加工、視力検査、補聴器販売など、眼鏡のプロとして必要な知識、技術をまんべんなく身に付けました。ちなみに、私が渋谷店で働き始めた90年頃から、それまで主流だったガラス製レンズがプラスチック製に移り変わり始めて。それに伴いレンズ加工の自由度が一気に高まり、フレームのデザインもおしゃれなものが増えてきたんです。ようやく、私が目指していた、おしゃれで眼鏡をかける、という時代に、少しずつ向かい始めた実感がありました。そして同時に、バリミキも出店を加速させ、業績が伸びていた時代でした。

―ハワイに出向された経緯、その後さらにロサンゼルスに移住し、ご自身のお店を構えるに至った経緯をお話してください。
もともと入社時から海外赴任を希望していて、それが94年よろ

Eye Walk Optician オーナー 名倉準人さん

ロサンゼルスで眼鏡店「Eye Walk Optician」を構えて18年。眼鏡を知り尽くした名倉さんが提供する的確で細やかなサービスは、多くの顧客に支持され続けています。そんな名倉さんに、これまでの歩みや転機、仕事におけるこだわりを伺いました。

やく叶った形でハワイに出向しました。大きな転機でした。1年目にアメリカのオプティシャン（眼鏡技師、販売員）の資格を取得し、3年目にホノルル3店舗のGMになり、2002年まで勤務しました。その後、バリミキがロサンゼルスに出店することになったのを機に、現地に出向となりました。お店の立ち上げから携わるなど充実していたのですが、06年、バリミキのロサンゼルスからの撤退と共に同社を退社。翌年07年に、眼鏡店「Eye Walk Optician」を設立しました。

―それから18年もの間、多くの顧客に愛され続けています。その秘訣は何だとお考えですか？

日本とアメリカの眼鏡サービスはかなり違います。いくつか例を挙げると、まずアメリカでは日本のようにオプティシャンがお客さまの視力を測ることはありません。ただ、視力検査の知識があるのとないのでは、お客さまに正しい眼鏡を提供するに当たって差が出てきます。また、

―最後に、名倉さんにとって眼鏡とは何でしょう？

当店ではレンズの加工はお客さま一人一人に合わせて、1ミリ単位の違いにこだわりながら妥協することなく行いますが、アメリカではラポに依頼することが多いです。結果、レンズの焦点がお客さまの顔にきちんと合っていないと見えにくいレンズができてしまうこともよくあるようです。あとは当店では当たり前のようにやっている眼鏡のフィッティングも、アメリカだとやれるお店が限られていたり。そういったことの積み重ねが、総合的なサービスの質の違いとなり、評価いただけているのかなと思います。

―仕事をされる上で、やりがいを感じてください。
うちのお客さまには、他店で満足

がいかずに来店される方も多いです。そういう場合、お客さまのご意向を第一に考えた上で、最大限の努力をして満足いただけるサービスを提供できるような努めるのですが、その結果、帰り際などにさりげなく「このお店に来て本当に良かった」などと言っていたら、それが何よりのやりがいになりますね。

近視、乱視、遠視、老視などの矯正の必要がある方にとって、眼鏡は日々の生活に欠かせないもの。本当に体の一部みたいなものですよ。ですから、そういう方々がストレスなく物を見ることができて、なおかつおしゃれで印象が良くなって、毎日眼鏡をかけることが楽しくなるようなサービスを提供することを、日々目指しています。良い眼鏡を作ろうと思ったら、一人一人のお客さまとじっくり向き合えないといけないので、一人のお客さまの対応に2時間以上かかることも多々あります。そのようにお時間をいただけてしまうことはあるかもしれませんが、必ず良い眼鏡をお作りしますので、眼鏡でお悩みの方はぜひご来店いただけたいと思います。



「Eye Walk Optician」開業当初の名倉さん。常連客も多く、20年以上の付き合いの顧客もいるとか。